

イスラエル国

首相 ベンヤミン・ネタニヤフ 様

駐日特命全権大使 ギラッド・コーヘン 様

2024年5月9日

新日本婦人の会会長 米山淳子

ガザ南部ラファへの攻撃中止と即時停戦をつよく求めます

イスラエルが、パレスチナ自治区ガザ南部ラファの一部地域への地上戦を開始したことに つよく抗議します。停戦への模索が続く中、ハマスが5月6日に休戦案の受け入れを表明したもとの攻撃強行は、ガザの人々はもちろん、国際社会の交渉妥結への期待を武力で押しつぶし、すでに絶望的な状況にある人々をさらなる恐怖に陥れる暴挙であり、絶対に許されません。

昨年10月7日の戦闘から7カ月、ガザでは3万5000人近くが殺され、飢餓など深刻な人道危機に直面しています。人口約25万人だったラファは、軍事攻撃を逃れて避難してきた人々で140万人にふくらみ、60万人を超える子どもたちも負傷や病气、心の傷を抱え恐怖と不安の中で暮らしています。イスラエルはラファの住民に「安全地帯」への移動を命じましたが、一体ガザのどこが安全だのでしょうか。

グテレス国連事務総長は、イスラエルを名指しして「地上侵攻は容認できない」「全面攻撃は人道破局になる」「(攻撃の)拡大ではなく外交交渉に建設的に関与を」と厳しく要求し、最大の支持者アメリカも、ラファへの全面攻撃に反対し弾薬供与の停止を表明しました。世界各地で、またイスラエル国内でも、人質の家族をはじめ多くの市民が停戦を求め行動しています。ラファへの地上侵攻の中止はもちろん、民間人の殺戮や人道物資の搬入妨害など国連憲章や国際法、国際人道法を蹂躪する行為をただちにやめ、交渉による即時停戦を実現すること、問題の根源にある占領と封鎖を解除し、パレスチナの人々の平和に生きる権利を保障するよう、つよく求めます。